

# 科学技術と社会の関わり

社会の諸問題について、専門家と参加者の対話を通して問題のより深い理解を目指す。この企画は、自由な対話ができるカフェスタイルで行う。

会場:ハービスOSAKA 4階イベントルーム

●8月18日(土) 14:30-17:00 地震の科学と防災・減災

## 1. 「南海地震の発生メカニズム」

モリ・ジェームズ (James J. Mori) 京都大学 防災研究所 地震防災研究部門教授

四国沖で発生する南海地震は1000年以上にわたり似たタイプの地震が繰り返し発生している。そして、遠くない将来に再び発生することが考えられているため、最新の機器を投入した観測や海底掘削研究が精力的に行われている。この南海地震について、歴史的な事実と最新の観測事実や研究成果を関連づけてお話しする。

内容: プレート境界型地震の発生メカニズム

最新の観測結果からわかってきた地震像

次の地震はいつ、どんなタイプの地震になるのか?

## 2. 「誘発される内陸直下型地震～南海地震と上町断層～」

今西和俊 産業技術総合研究所活断層・地震研究センター・主任研究員

プレート境界型の巨大地震の前後に内陸直下型地震が発生して被害を拡大する事例が知られている。大阪の街の真ん中を走る「上町断層」でも、南海地震の前後に直下型地震が誘発されるかもしれない。地震の連動・誘発のメカニズムを最新の地震観測結果や理論の立場からお話しする。

内容: 内陸直下型地震の発生メカニズム

上町断層の重要性

プレート境界型地震による内陸直下型地震の誘発メカニズム

## 3. 「関西における地震・津波防災の課題」

林能成 関西大学社会安全学部・准教授

今年3月31日に東海地震・南海地震の新しい想定地震が公表され、関西地方でも多くの自治体で防災対策の見直しが必要になっている。何を見直し、どう備えていくべきなのか、想定外はどう解決していくべきかなどについて、東海地震対策を30年以上続けてきた静岡県の例などと比較しながらお話しする。

内容: 地震による被害発生のメカニズム

想定地震の変化は防災対策にどんな変化をもたらすか

静岡における東海地震への備え、反省

関西はどう備えていったらよいのか

## ●8月19日 14:00-17:00 エネルギー問題を考える

### 1. 「福島原発事故と日本の原子力発電」

片岡 勲 大阪大学工学研究科教授

福島原発事故はどのようにして起こり、どのような問題があったか、現状はどのようになっており今後どのようにしていけばよいかについて、日本の原子力発電のこれまでの経緯、現在の状況、今後の課題に関連づけてお話する。

内容：なぜ福島原発事故が起こったのか？

これからどのようにして福島原発を処理していくのか？

日本の原子力発電はこれからどうしていけばいいのか？

### 2. 「原子力の安全確保 — ストレステストとは？」

山口 彰 大阪大学工学研究科教授

日本のエネルギー資源の確保、学術の進歩と産業の振興、そして人類社会の福祉と国民生活の水準向上が原子力エネルギーを利用する目的であり、それには安全の確保を確実にしなければならない。安全の確保はどのように確認するのかわかりやすくお話する。

内容：なぜ、日本は原子力発電を使っているのか？

安全性を確保するとはどういうことか？

ストレステストは安全の確保に役立つのか？

### 3. 「福島原発事故による放射能汚染の現状と課題」

藤原 守 岐阜大学教育学部准教授

福島原子力発電所事故に伴い放出された放射性物質による汚染分布状況実態とこれからの課題についてお話する。

内容：福島原子力発電所事故により放出された放射能物質分布

チェルノブイリ事故などとの比較

放射能の空気中での吸収と除染効果

### 4. 「エネルギーとの付き合い方」

木全 吉彦 大阪ガス(株) 理事 エネルギー・文化研究所所長

東日本大震災、福島原発事故、電力不足をきっかけとして、私たちは、これまで空気水のように「あって当たり前」と思っていた「エネルギー」に正面から向き合うことになりました。一人の生活者として、また一人の国民として知っておくべきエネルギーの基礎知識や、エネルギーと上手につき合うスマートな暮らし方・社会のあり方について考えてみたい。

内容：エネルギーの一生（上流～下流、一次/二次エネルギー、廃棄物・地球温暖化）

暮らしの中のエネルギー（衣・食・住・遊、省エネ）

ひと、まち、地球とエネルギーの明日（エネルギー政策、ワークスタイル、ライフスタイル）

### オブザーバー参加

「放射能汚染と暮らす」

石井 裕 就実大学元教授